8. 駿河トラフ、南海トラフ沿いの構造線について

水路部 茂木昭夫

- ① 当部実施の1/20万の地層地質構造の探査では、石花海堆はほぼNE-SW方向の背斜構造、石花海盆は同方向の向斜構造を示しているが、マルチチャンネルプロフィールの記録によれば(石油技術開発センターの好意で閲覧)、石花海堆を構成している下層の状況から見て、明らかに東側(トラフ側)は断層で切られており、堆軸に沿う背斜軸を中心として西側に緩やかに傾いた非対称褶曲を示して、陸側に向かう傾動運動が推定される。

石花海盆では、西側大陸斜面に沿って断層と思われる強い反射面が見られるので、海盆も単なる向斜海盆ではなく断層角盆地の可能性もある。

- ② 南海トラフの内側には多数の同種のridge、海盆が発達しているが、表層堆積構造から見た限りでも、駿河湾石花海堆に見られると同じようなridgeの傾動運動が推定され、これらのridgeは内陸に傾動している室戸岬、紀伊半島南端、足摺岬と地形的につながる。

- ③ 駿河湾内にトラフ軸を斜めに横切るEF線が推定されたが、同じような南海トラフ軸を水平にズラしていると思われる地形が、3ヶ所で指摘されている。1つは天竜海底谷が南海トラフに開口する地点で、ここで西側が南にズレている。天竜海底谷筋は赤石裂線の延長に当る断層と考えられている。従って天竜海底谷とEF線が限られた地塊そのものが、両隣のブロックに対して陸方にズレているような形になっている。もう1つは室戸岬の南方で矢張り東側に対して西側が南にズレている。ここは南の紀南海山列の延長に当る。更にもう1ヶ所は九州の東側で、南海トラフから琉球海溝へ変る所に当り、九州・パラオ海嶺がここで交叉している。